

富岡小学校の実践と群馬県の研究主題との関わり

大会主題：豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育
群馬県研究主題：自らの生活を見つめ、生活をよりよくしようと工夫し実践できる児童の育成

研究主題に迫るための手だて

視点2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（はばたく群馬の指導プランⅡの活用）

(1) 問題解決的な学習の工夫

① 家庭科の学習過程の明確化

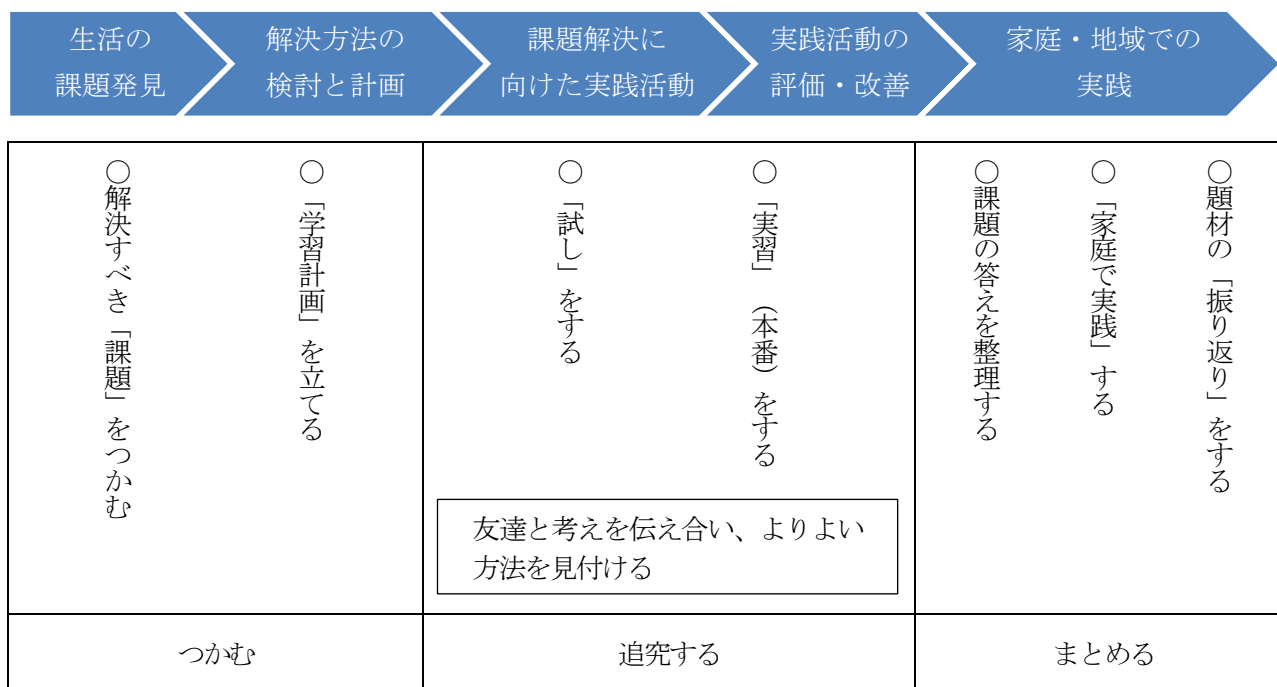


図1 家庭科の学習過程と学習活動

児童の学びたいという意欲を高め、主体的・対話的に学習を進めるためには、生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決方法を考え、他者と意見交流し、実践を評価・改善して、解決策を導き出していく過程を重視した問題解決的な学習の充実を図る必要がある。また、自らの生活を見つめ、生活をよりよくしようと工夫し実践できる児童を育成するためには、児童が「家庭科の学び方」を身に付けることが大切である。そこで、本校では、問題解決的な学習の充実を図り、児童が「家庭科の学び方」を身に付けることができるよう、はばたく群馬の指導プランⅡに示されている家庭科の「つかむ」「追究する」「まとめる」過程における具体的な学習活動を、図1のように平易な言葉で表すことでより明確にし、この家庭科の学習過程を児童と共有し学習を進めていくこととした。

「つかむ」過程では、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けた学習計画を児童と共に立て、児童が主体的に知識及び技能を習得しようとするよう題材の導入を工夫していく。その際、「本題材で解決することは何か」「どのように学習を進めるのか」「課題を解決した後はどのような姿になっているか」など、題材で解決することや学習の方向性、目標を達成した姿を児童がイメージできるようにすることが大切である。

「追究する」過程では、題材の課題解決に必要な知識及び技能を習得するための実践的・体験的な活動（試しと本番）を行う。その後、試行した方法について実際にやってみてどうであったかを考え、「この方法を使うと良さそうだ」「もっとこうすべきだった」のように友達と考えを伝え合い、評価・改善を行う。このように実践的・体験的な活動（試しと本番）と評価・改善を繰り返すことで、よりよい方法を見付け、課題の解決を図っていく。友達と考えを伝え合い、よりよい方法を見付けるといった経験を積むことで、友達と話し合うことよき気づき、対話的な学びへとつながると考える。

「まとめる」過程では、課題の解決に向けて取り組んだ結果を振り返り、課題の答えを整理する。そして、家庭での実践計画を立て、家庭での実践を行っていく。学習内容によっては、家庭での実践が「追究する」過程にある場合や、学習の最後にある場合も考えられるが、家庭での実践後には、感想や結果を話し合い、題材の振り返りをきちんと行うことが大切である。そして、振り返りを行う中で新たな課題を見付け、日常生活につなげることができるようにしていく。さらに、児童は題材の学習前の自分と学習後の自分を比較し、どのようなことができるようになったかを自覚することで、自分の成長を実感することができ、今後の学習意欲の向上につながると思う。

このような学習過程を児童と共有しながら学習を進めていくことで、児童が学ぶ意欲をもって課題に気付き、授業や生活の中で主体的・対話的に課題解決に取り組むことができると考える。そして、家庭科の学び方を身に付けることで、生活をよりよくしようと工夫し実践する力を育てられると考えた。

② 課題の設定

日常生活の中から問題を見だし課題を設定するにあたり、「題材の目標と現在の生活との違いや差」「目標と比較して、まだできないことやまだ知らないこと」「できるようになりたいこと、知りたいことなどの思い」を家庭科における問題と捉え、問題の中に児童の思いも含めることとした。問題を見いだす際には、児童の思いを引き出すことができるよう、見本となる実物を観察する時間や、具体的な生活場面を想起する時間、実際に試す時間などを十分に確保することが大切である。そして、図2のように4つのステップを踏み、課題の設定を行った。ステップ1では、見いだした問題を整理する。ステップ2では、解決の目的となる自分と家族のつながりを明確にする。ステップ3では、目標とする状態にふさわしい解決の条件や方法を明確にする。ステップ4では、ステップ2とステップ3を基に、課題を設定する。この4つのステップを踏み、課題を設定することで、学習の方向や目標を達成した姿が児童にとって明確になり、学習の見通しをもつことができ、主体的な学習へとつながると考える。また、生活の営みに係る見方・考え方は、深い学びの鍵となるものであり、児童が見方・考え方を働かせることができるように授業を構想する必要がある。ステップ3では、目標とする状態にふさわしい解決の条件や方法を明確にすることで、生活の営みに係る見方・考え方が児童の言葉で具体化されることになる。この具体化した言葉で設定した課題を常に意識して学習を進めていくことで、児童は生活の営みに係る見方・考え方を働かせることができ、深い学びにつながると考える。

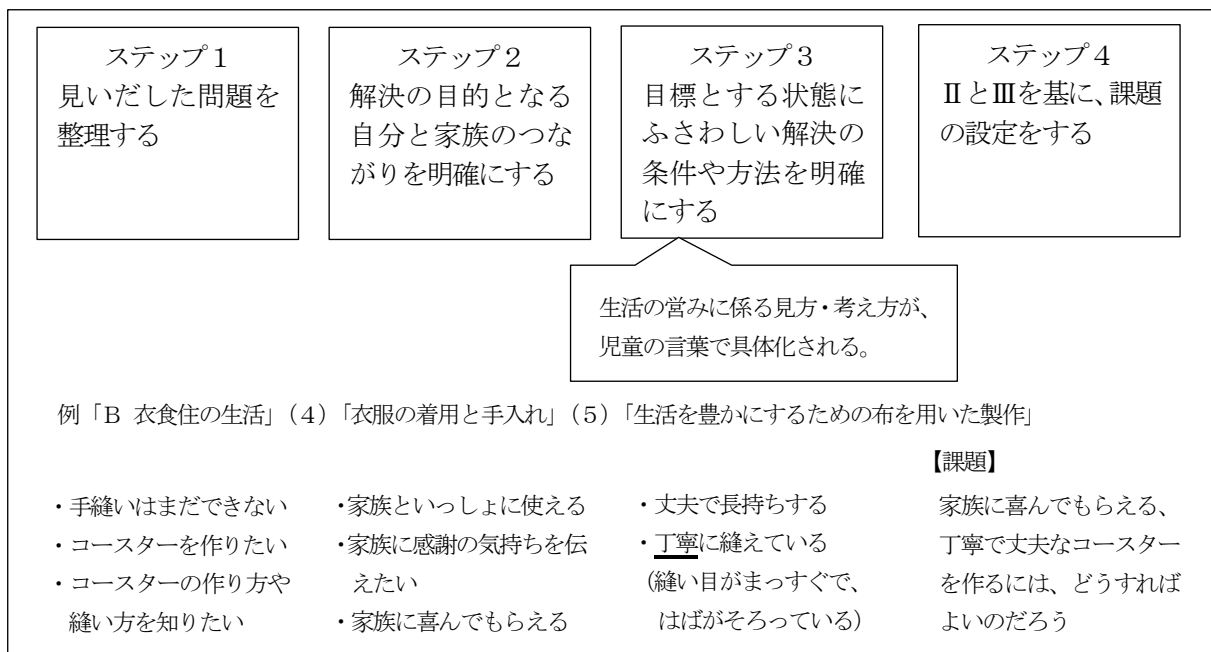


図2 課題を設定するための4つのステップと具体例

(2) ICT の効果的な活用

家庭	<p>児童は、事前に（本時の学習前に家庭で）動画を視聴し、よく分からなかった点や大切だと思うことについてまとめ、教師に送信する。</p> <p>◎繰り返し動画を視聴できる。</p> <p>◎家族に確認できる。</p>
本時	<p>教師は、児童の送信内容をもとに授業を構想する。</p> <p>◎授業中の活動時間を十分に確保できる。（時間をかけたい活動に時間をあてられる）</p> <p>◎家庭で視聴したものと同一動画を必要に応じて確認できる。（個に応じた手立てになる）</p>

課題を解決するために必要な知識や技能を身に付ける際に参考となる動画（図3）を作成し、タブレット端末を活用して、授業の前に家庭で視聴したり授業中にいつでも視聴できたりするようにした。動画を作成することで、児童が扱うものと同じもので見本を示すことができるので、児童が実践の際に戸惑うことが少なくなり、スムーズに活動することができる。また、タブレット端末を活用することで、本時の学習前に家庭で繰り返し動画を視聴することができ、課題解決に必要な新たな知識に触れることができる。事前に家庭で視聴する際には、動画の中でよく分からなかった点や大切だと思う点についてまとめ、教師に送信しておくようにする（図4）。これにより、教師は児童の送信内容をもとに本時の授業を構想することができる。また、分からないことを家族に確認したり、大切なポイントやコツを聞いたりすることができるので、家庭との連携にもつながると考える。授業では、事前に動画を視聴したことにより、説明の時間を短縮することができ、児童が試行錯誤したり考えを深めたりする活動時間を十分に確保することができる。また、動画で分かりにくかった部分を中心に授業で説明したり、大切だと思うことや家族から聞いたコツについて全体で共有したり、児童同士で説明し合ったりすることでより理解を深めることができ、日常生活で生かすことのできる知識や技能を身に付けることにつながると考える。さらに、いつでも視聴できるので実習の場面でも必要に応じて動画で確認することができ（図5）、一人一人に合った学びを促すことができると考える。

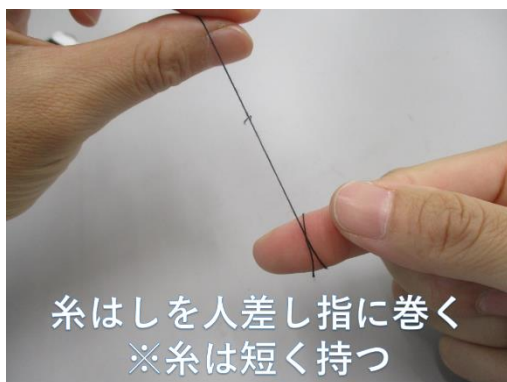


図3 作成した動画（例）

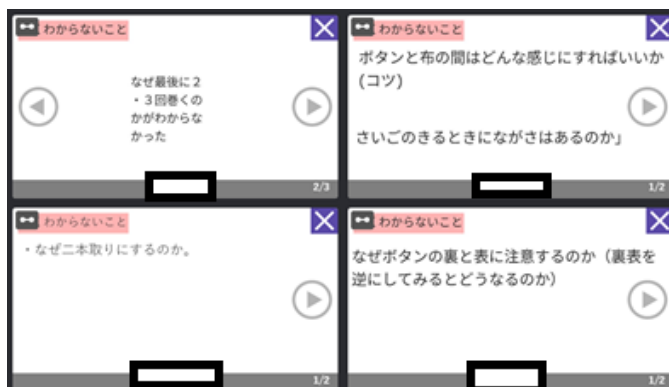


図4 児童が教師に送信した内容

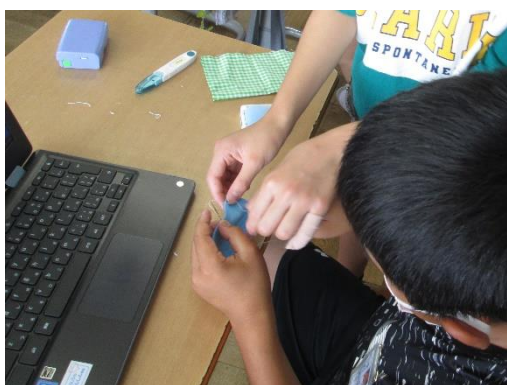


図5 動画を確認しながら学習を進めている様子

○補足資料—富岡小学校における研究・研修のあゆみ（令和2年度～令和4年度）

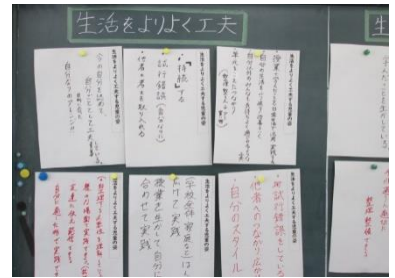
(1) 令和2年度：新学習指導要領で家庭科が目指す方向性を全体で把握する

- ①研修主任が概念図を作成 ②総合教育センター指導主事の講話 ③家庭科担当による模擬授業



(2) 令和3年度：学習した知識・技能を活用して、自分の生活に合わせて活用できる児童の育成

- ①全体研修（対話的な学びの充実） ②全体研修（生活をよりよく工夫する児童の姿の検討）



濱田先生（群馬大）による講義

③家庭科との関連性を意識した授業づくり（低学年・中学年ブロック）



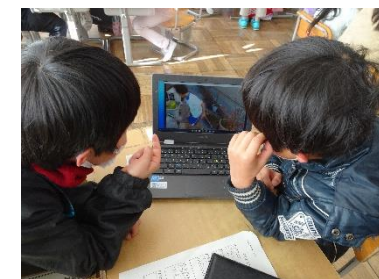
○1年生（生活科：「じぶんのできるよ」…家庭でのお手伝いを紹介する）



どんなところが工夫できたかな？

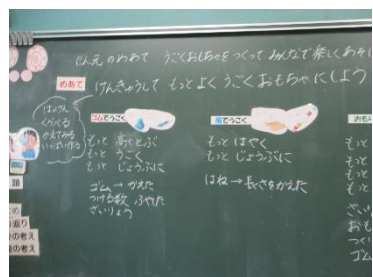


ワークシートを使って取組を発表



家で撮影したお手伝いの動画を紹介

○2年生（生活科：「うごくうごく わたしのおもちゃ」…より良い動きに改善する）



「もっと〇〇」をめざして工夫しよう

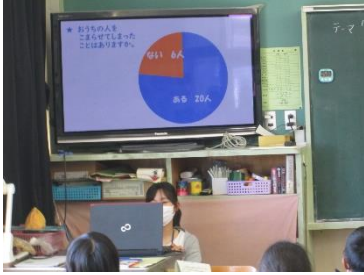


おもちゃの動きを試し合う児童



西部教育事務所・指導主事との検討会

○3年生（道徳科：「お母さん、かぜでねこむ」家庭生活の充実）



児童の声を可視化



家族からのメッセージを紹介



富岡市教委・指導主事との検討会

○4年生（道徳科：「ぼくの生まれた日」家族愛）

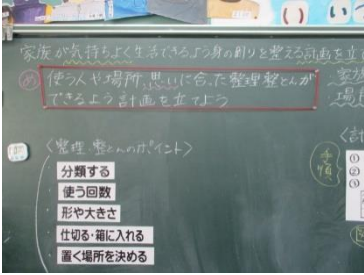


グループで広く意見を交わす



友だちの考えと自分の考えを比較する

○5年生（家庭科：「ものを生かしてすみやすく」身のまわりを整える計画を立てる）



家族の一員として考えてみよう



家庭での実践の画像を見ながら対話



整理の計画をよりよいものに改善

○6年生（家庭科：「まかせてね 今日の食事」）



バランスのよい献立にするには？



グループでの交流からの気づきを発表

○市家庭科主任会との合同研修（型紙を用いたエプロンづくりの指導について）

講師：県教委・義務教育課指導主事



身長に合わせて不織布に印を付ける



型紙に合わせて布に線を引く



○全体研修（問題解決的な学習過程）



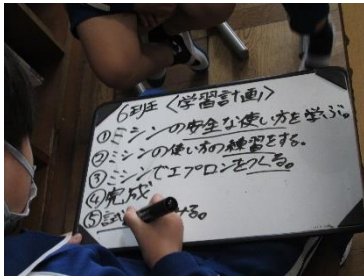
○研究検討（公開授業に向けた指導計画等） 県教委・義務教育課指導主事



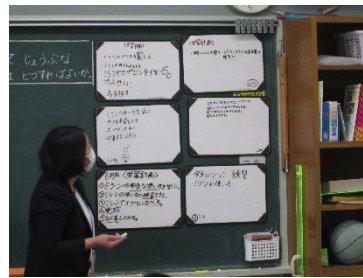
(3) 令和4年度：

①富岡市小学校家庭科主任会との連携1（公開授業に向けた試行授業と授業検討）

○小野小学校（6年生：「思いを形にして生活を豊かに」学習課題と学習計画） 6月



班ごとに学習計画を構想



各班の計画を比較し必要な活動を整理



児童に計画の順序を見出させるには？

○妙義小学校（6年生：「まかせてね今日の食事」学習課題と学習計画） 9月



何ができるようになりたい？



児童の言葉で学習課題がまとまる



学習計画の構想に端末は効果的か？

②富岡市小学校家庭科主任会との連携2（問題解決的な学習活動のワークショップ） 8月



不織布を用いた型紙のよさを説明



不織布に線を引き型紙を制作



型紙に合わせて持参した布を裁つ

③富岡小での授業研究（公開授業に向けた校内研修での模擬授業） 9月

○5年生



○6年生

